

7月改選期より農業委員の選任方法が変わります。

～農地利用最適化推進委員が新設されます～

- ★農業委員14名（公募・推薦により、議会同意の上、町長が任命）
- ★農地利用最適化推進委員10名（公募・推薦により、農委が委嘱）

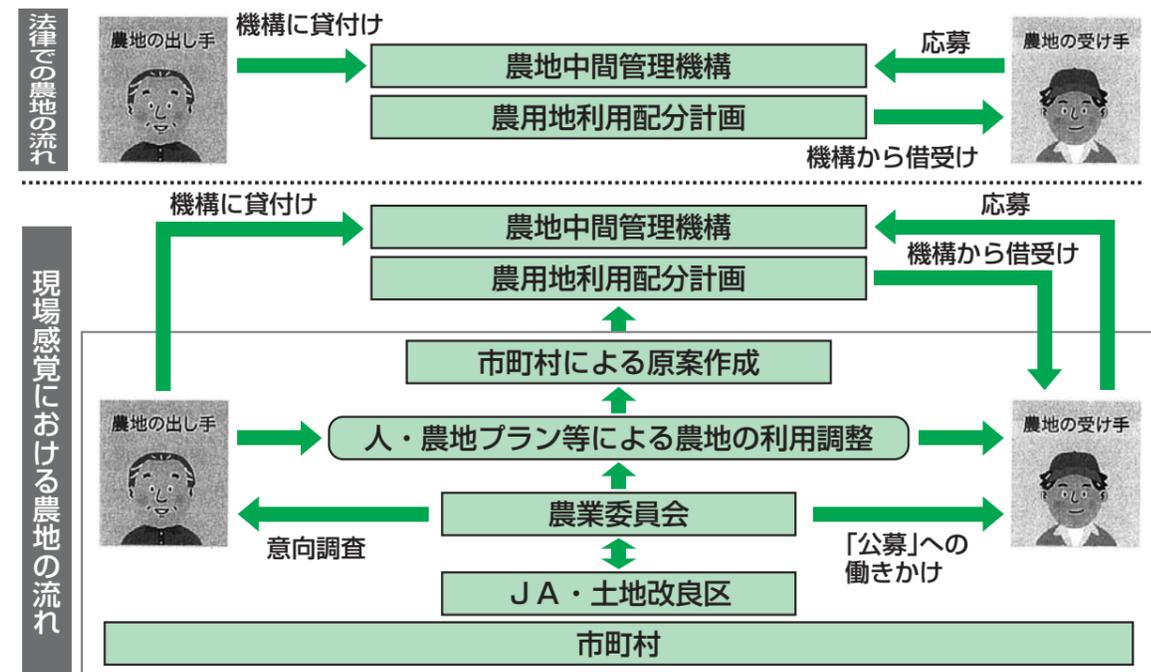
◎主な仕事（農業委員も農地利用最適化推進委員も共通任務）総会議決権は農業委員のみ

- 担い手へ農地集積・集約促進
- 耕作放棄地の発生防止と解消
- 農業への新規参入の促進
- 農地利用最適化推進に関する指針の策定

12月	1月～4月	5月	6月	7月
◆定数条例等の設定 (町議会にて議決)	◆公募等状況の公表 ◆推進委員公募開始 ◆農業委員公募開始 ◆公募・推薦方法の周知 ◆改正内容の周知 ◆規則・要綱等の整備	◆農業委員の選定・準備 ◆評価委員会の開催等 ◆公募等の締切	◆評価委員会の開催 ◆推進委員の選定 (6月定例議会) ◆農業委員の議会同意提案	◆最適化推進指針の策定 ◆推進委員の委嘱(農委) ◆農業委員の任命(町長) ◆第一回総会の開催 【七月二十日】

公募期間(約1ヵ月)

農地中間管理事業の流れ



私が農業を始めたのは、勤めていた会社を辞めた時に、親から勧められたのがきっかけでした。

小さい頃から身近な職業とはいえ、本格的に始めるとなると会社勤めからの転職なので、休みも不定期なうえに慣れない力仕事、最初から「農業をやろうー」と思ってた人より、知識も技術も劣るスタートなので初めはあまり楽しくはなかったと思います。(笑)

しかし、収穫時期の達成感やお客様とのふれあいのなかで、農業の楽しみやうれしさ等を体感し、やりがいを感じ始めました。

年数を重ねるうちに作業の流れも身に付き、作業効率を考えると余裕も出てきました。私の家では水稲と西瓜を作っているのですが、二年前から私が主に稲作を担当するようになりました。身近な農家から、米お前作ってみたいべ



と言われたのがきっかけで、やってみたいと思いました。農業の高齢化が進んでいるという事です。始めて二年足らずで約3haも作付面積が増えました。年齢で面積を減らす農家や辞める農家からバトンを受け、周りを見ても若い農家の人は少ないので、これからはますます貸し農地が増えてくることは、目に見えている

ので、先の農業経営も考えていかなければならないと思います。他に感じたことは、今の農業は季節の作業内容、肥料や除草剤の散布時間、散布量、薬剤等の名称等をきちんと記載報告する経歴明快の時代であるということです。

今の消費者の皆さんは、味はもちろん安全安心な食材を求めていることを肌で感じており、これらを踏まえて責任



を持って仕事(米作り)に打ち込みたいと思います。

今後、作付面積が増加していけば作業効率の向上を図るため、機械の購入や施設の拡大等を考えていかなければならないので、農業経営についてもっと勉強しながらがんばっていきたいと思います。

まだまだやらなければならぬことが沢山あり、自分のいたらないところに多少不安もありますので、農家の先輩方、関係機関の皆さんにいろいろなおアドバイスを協力をお願いしてがんばりたいと思います。

◆県内で新規就農者が増えています。(H28.9 県農林水産部公表資料より)

H28.5月末現在

総数 300人【男209人 女91人】内、学卒57人・Uターン112人・非農家131人
前年比：(総数+20人) (男+3人) (女+17人) (+13人) (+3人) (+10人)

- 特徴：①新規学卒就農者が増加している。
- ②新規参入就農者(非農家出身者)や女性の就農が着実に増加している。
- ③農業法人等へ就職する雇用就農が5割となった。

★山形県の新規就農支援 やまがた農業支援センター・県立農業大学校と連携を図った取組 平成28年度事業(平成29年度は未定)

	主な施策と内容
動機付け段階	○広告・PR活動 ○就農相談活動(首都圏や地元) ○体験バスツアー、短期体験
就農準備段階	○独立就農研修事業(45歳以上) ○雇用就農促進事業(45歳以上) ○働きながら学ぶ入門講座(他産業従事者向け、夜間・休日)
就農初期段階	○新規就農定着サポート事業(新規参入者に営農費用助成) ○新規就農者フォローアップ活動(農業技術普及課・やまがた農業支援センター)